

年 頭 所 感

明 け ま し て

お め で と う ご ざ い ま す

地 質 調 査 所 長 佐 藤 茂

第2次大戦後永年にわたって懸案となっておりました地質調査の本所(川崎市高津区)と東京分室(東京都新宿区)との1本化が実現し 昨年の11月に筑波研究学園都市の新庁舎に移転してまいりました。装いを一新したこの新庁舎で 我が国の新しい未来への転換期になるであろうといわれる1980年代の幕明けの新春を迎えることは誠に意義深く 感慨新たなものがあります。

地質調査所は 明治15年(1882)に創設されて以来 地質・地下資源に関する国立の調査研究機関として 我が国の発展に寄与してまいりました。とくに 第2次大戦後は 壊滅状態となった国土の復興 それに続く経済の高度成長 快的な生活の確保等国家・社会の要請に応えるべく多くの成果を挙げてまいりました。

しかしながら 昭和48年(1973)の石油ショックを契機として国際環境が急速に複雑となり 資源が極めて乏しくかつ人口密度の高い我が国にとって エネルギー・鉱物資源の安定確保 経済大国としての国際的責務の遂行 住みよい社会の開発等が 我が国の将来を左右するような重要な課題となっております。このような課題を解決してゆくために 当所にかせられた役割りは 極めて大きなものと思われまふ。この機会にこれら諸課題に対する対応を中心に当所の進むべき方向について私の考えの一端を申し述べたいと思います。

まず 上記の諸課題に直接対応する比較的大規模なテーマとしては 新エネルギー資源としての地熱資源の研究 地震予知の研究及び海洋地質・鉱物資源の研究を当所の重点テーマとして組織的に実施しておりますが 80年代にはさらに充実発展させ 国家・社会の要請に積極的に応えてゆくこととしております。これらの研究はいずれも新分野に属する中一長期の国家的研究計画の一部を分担実施しているもので 研究の推進にあたっては



佐 藤 茂 所 長

長期的視野に立って 基礎研究から応用研究まで一貫した体系のもとに計画的に実施し 段階的に実用化を図りつつ より高度な研究へ発展させてゆくことが肝要と考えます。

次に 当所の基本的研究業務として 5万分の1地質図幅等各種の地質図幅を作成しておりますが これらは地下資源の探査や国土の開発・保全等の基礎資料として多方面に活用されており 今後とも重点業務として促進してまいりたいと思っております。

また 将来の研究開発のシーズを育てるために創造性豊かな基礎研究も重視すべきものと考えます。

上記の他に 地質・地下資源に関する国際協同研究・海外技術協力等の国際協力及び国内外の地球科学情報の整備は当所における重要な業務であり 今後さらに充実してゆく必要があります。

さらに これらの業務を効果的に推進し 成果を充実するためには 多くの研究機関の集中移転や当所の1本化の利点を生かして 所内外における研究交流や研究協力を促進することが重要な要素となるものと思われまふ。

以上述べたように 80年代に向けて地質調査所の果すべき役割りと責務がますます大きくなることを肝に銘じ 一新された研究環境のもとで 国家・社会の期待に応えるように最善を尽す所存であります。